

インドネシア・アチェ シアクアラ大学で開催された災害復興を考えるフォーラムに出席しました(2018/12/27)

テーマ：災害復興、国際連携、学術－メディア連携
場所：インドネシア・バンダアチェ シアクアラ大学構内

2018年12月26日で、インド洋大津波発生から14年となりました。その翌日の12月27日(木)に、インド洋大津波で甚大な被害を被ったインドネシア アチェ州バンダアチェにて、「被災地における大学およびメディアの役割」と題したフォーラムが開催されました。このフォーラムは、アチェと東北で復興に関する現状・知見を共有することを目的に、シアクアラ大学大学院防災学研究科が主催し、京都大学東南アジア地域研究研究所 西芳実准教授・山本博之准教授の協力のもと、IRIDeSの学術－メディア連携活動の一環としても実施されたものです。当日はシアクアラ大学の教員・学生を中心とした約80名の参加者がありました。

フォーラムでは、京都大学の西准教授が司会・モデレーター・通訳を行いました。冒頭のシアクアラ大学大学院防災学研究科 ナズリ・イズマイル研究科長の挨拶に続き、当研究所の中鉢奈津子特任助教(広報室)が「被災地における大学研究所の役割」と題し、IRIDeSの復興への取り組みを広報室の視点から発表しました。さらに、IRIDeS学術－メディア連携企画参画者である東北放送の笠原豊ディレクターが、映像を用いて東北被災地の復興に関する問題提起を行いました。聴衆からは、アチェと東北復興の共通課題および相違点について、活発な意見が寄せられました。

フォーラムの最中、アチェおよび東南アジア地域研究の第一人者である西准教授・山本准教授より、アチェの歴史・文化・社会に関し補足説明がなされ、議論が深まりました。東北－アチェ、学術－メディアで連携しながら、復興のあり方を多角的な視点から捉える機会となりました。



中鉢特任助教の発表および会場の様子



ナズリ研究科長



笠原ディレクターと西准教授

文責：中鉢奈津子(広報室)